

梅檀

令和の時代へ

昭和から平成、そして「令和」へ。その意味は？
厳しい寒さのあと、美しく咲き誇る梅の花のような
希望に満ち溢れた時代にしていきたいとの意味が込
められていると安倍総理が見て述べていられていま
した。さらに「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が
生まれ育つ」という意味も込められているとのこと



式での校長式辞の一文である。この『親』について
説明を付け加えたい。

ここで示した「親」とは単に保護
者を意味するものではない、それは
保護者・教師達・地域の皆さます
べてを含めた『大人達』を意味するも
のである。子どもを育てる責任はす
べての大人たちの義務であることを確認しておきた
い。なぜならば、私たちが年老いたとき私たちを支
えてくれるのは間違いなくこの子たちであるから。



小学校入学が令和元年の
節目の子ども達、変化の
激しい時代にどのよう
に子ども達へ「夢や希望」を
育んでいけばよいのだろ
う。学校・保護者・教師達
の使命であり、協働の挑
戦である。『子どもは勝
手には育たない、子ども
は親が育てたようにしか
育たない。』今年度の入学

《学校の風景》『つながる』《



村内各学では、アブシバ
リーの地域行事も終わり梅
雨期に入りました。学校内
では教材園で育てたキュウ
リやトマトの収穫が始まり
ました。写真はたわわに実
ったキュウリを収穫し喜ぶ
2年生です。最近ではパー
トやマンション暮らしが主
流で、自らの畑を耕し、作物
を育て、収穫して自分たち

で食するという機会を設けることが難しくなりまし
た。これも時代ですね。だからこそ学校でその体験
をつくらせてあげることの意義が大切にされるのです。
「学校と家庭」、「保護者と教師」が互いに協働し、
互いの不を補い、支え合う共生と共同の学校へ。目
的は実にシンプルで分かりやすいものです。

☆ 先生と親が「子どものために」つながるです。

交通安全指導への協力

6月5日（水）朝の登校時の安
全指導に二人の保護者が参加して
くれました。1年生のらいとさん
のお父さんと、ながせさんのお母
さんです。登校する子ども達と笑
顔であいさつを交わしながら安全
を見守っていただきました。

安全指導は7時45分か
ら8時までとさせていただきます。
皆様のご理解とご
協力よろしく願います。



学校の授業風景が変わる

4月より村教育委員会の計らいで各教室に電子黒板が配置された。授業する側の教師も、子ども達も「分かりやすい」と大好評である。教師はPCを手に座ったままでも授業の進行が可能になりました。ヨーロッパではこの授業風景が主流です（ほとんど黒板は使いません）。IT革命、イノベーションなど様々な変化が学校の教室まで浸透してきました。これまでと違う授業風景に親たちは違和感を感じるのではないかと察しますが。これも時代です。それにしても本校の先生方の対応能力には私も頭が下がりました。私、老兵も時代に乗り遅れないようにしなければ・・・

《がんばる先輩たち》

私の学校経営の方針に
異学年交流学習がありま
す。先輩と後輩のつな
がりを授業でつくるという
ものです。上の写真は2
年生が1年生に国語のお
勉強で順序に気を付けな
がら「ありとすみれ」に
ついて説明しているところ
です。下の写真は4年
生が2年生に「生き物ク
イズ」を出して楽しく学
んでいるところです。兄
弟がセットになることも
あり、お兄ちゃんお姉ち
ゃんは手を抜けません。

